



SWS No.26 - 1/32 Focke-Wulf Fw 190 A-3

Inhaltsverzeichnis

Contents / 目次

Teil 1	Flugzeugspezifikationen	実機 諸元 / Actual Aircraft Specifications	3.
Teil 2	Baustufenübersicht	組み立てについて / Assembly Information	4.
Teil 3	-1. Motor	エンジン / Engine	7.
	-2. Führerraum	コックピット / Cockpit	18.
	-3. Rumpf	胴体 / Fuselage	30.
	-4. Flügel und Fahrwerk	主翼と主脚 / Wings and Landing Gear	39.
	-5. Abschließende Bauschritte	最終機装 / Final Outfitting	61.
Teil 4	Farbgebung und Abziehbilder	塗装とデカール / Painting and Decals	69.
Teil 5	Teileübersicht	パーツリスト / Parts List	74.

● Focke-Wulf Fw 190 A-3 実機性能諸元 / Actual Aircraft Dimensions, Performance and Characteristics

・用途: 戦闘機	・Role: Fighter
・乗員: 1名	・Crew: 1
・全長: 8,850mm (水平姿勢)	・Length: 8,850 mm (level attitude)
・翼長: 10,500mm	・Wingspan: 10,500 mm
・動力: BMW 801 D-2	・Power: BMW 801 D-2
タイプ: 星型複列14気筒、空冷式、過給式	Type: 14 cylinders in two-row radial layout, air-cooled, supercharged
・最高速度／高度: 660km/h(6,100m)	・Maximum speed / altitude: 660 km/h at 6,100 m
・航続距離: 810km	・Range: 810 km
・武装: MG 17 機銃 × 2挺	・Armament: MG 17 Machine Guns × 2
MG 151 機関砲 × 2門	MG 151 Cannons × 2
MG FF 機関砲 × 2門	MG FF Cannons × 2

Teil 1 Flugzeugspezifikationen

1. 実機 諸元 / Actual Aircraft Specifications

ドイツ空軍 フォッケウルフ Fw 190 A-3

Luftwaffe Focke-Wulf Fw 190 A-3

第二次世界大戦後半にヨーロッパで活躍したFw 190は、パワーと頑丈さを併せ持ち、優れた射撃性能を備えた機体だった。非公式にWürger(モズ)の愛称と呼ばれたFw 190は、Bf 109と並んでドイツ空軍の主力戦闘機だった。Fw 190は東部戦線、西ヨーロッパ、国土防衛、北ヨーロッパ、地中海、アフリカで活躍し、この頑丈なドッグファイターはすべてのパイロットに好まれ、その多くはエースとなった。1938年初頭、ブレーメンのフォッケウルフ航空機工場はRLM(ドイツ航空省)から、メッサーシュミットBf 109と並んで運用されるドイツ空軍の主力戦闘機の開発を依頼された。設計はフォッケウルフ工場の技術部長クルト・タンクの指導のもとに行われ、彼は信頼性と最新の技術を兼ね備え、さまざまな飛行場から運用でき、整備が容易な頑丈な航空機を作ろうと企画した。設計当初から、機体の動力や制御方法について、異なるアプローチを採用し、当時一世を風靡していた水冷エンジンではなく、パワフルで信頼性の高いBMW 801星型14気筒空冷エンジンを動力源として選んだ。フラップ、足回り、トリムなどの動力装置は、油圧を使用する当時の他の航空機とは異なり、すべて電気で作動するようになっていた。このため、冷却水や油圧系統の破損の心配がなく、またバランスのとれた操作系はケーブルではなくロッドとベルクランクで連結されており、これが信頼性と生存性をさらに高くしていた。機体は全金属製の低翼カンチレバー(片持ち)型単葉機で、舵面は布で覆われていた。また主脚はオレオダンパーを備えた幅広の設計としたため、さまざまな飛行場での運用が容易だった。最初の試作機は1939年6月1日に初飛行し、1941年3月に生産が開始された。戦闘機、爆撃機、対地攻撃機、夜間戦闘機、装甲迎撃機、練習機など、さまざまなタイプがあり、生産期間中の4年間で23,823機が生産されたと推定されている。

1942年の3〜4月頃、離昇出力1,700馬力を誇るBMW 801 D-2エンジンを搭載し、最高速度660km/hを発揮するFw 190 A-3の量産がついに開始された。これにより、Fw 190初期型の“決定版”とも言うべき完成形が確立されたのである。A-3では、エンジンカウリングの分割方式や側面バルジ形状の変更、新設されたエアベントなど、外形上の特徴がさらに洗練され、Fw 190ならではのシルエットが完成の域に達した。胴体下面にはETC-501爆弾架が装備され、戦闘爆撃機としての運用能力も獲得している。さらにA-3は、昼間戦闘機としての本来の任務に加え、多目的運用の可能性を探るための試験も行われ、工場改修型としてU1・U3・U4・U7の4種類が用意された。これによりA-3は、シリーズ初の本格的な多用途型としての位置付けを得た。生産数は509機に及ぶ。

そして本SWSキットでは、エンジンマウント延長前の初期シルエットを備えた“ショートノーズA-3”の真の姿を、世界初となる1/32スケールで徹底再現。機首から胴体側面へと繊細に移り変わる断面形状、それらを包み込む絶妙な面構成——航空機としての美しさと力強さが融合した、あの独特のフォルムを余すところなく立体化している。

カラー&マーキングは10./JG1の“White 12”と、10.(Jabo)/JG2の“Blue 6”を採用。“White 12”については、鬼のエンブレムで知られるJG1の最新考証に基づく「黄色地に赤鬼」のデカールも追加。一方の“Blue 6”は、船をくわえたキツネのエンブレムで知られるJG2所属のJabo(戦闘爆撃)中隊機で、A-3の多用途性を象徴する存在である。

長年にわたり、徹底的な取材と設計検証を積み重ねてきたSWSチームのこだわりが、このFw 190 A-3に結晶。模型としての再現度、そして実機の真の姿——その両方が到達点に達した一作である。

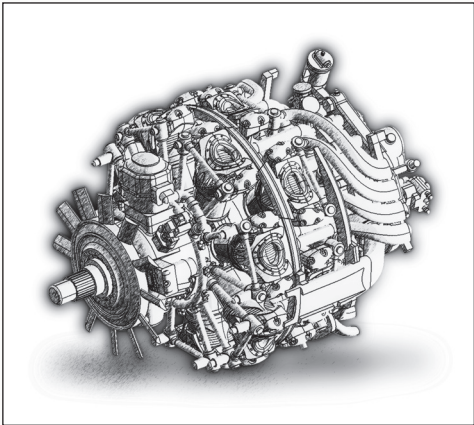
●エンジン / Engine

BMW 801 D-2	BMW 801 D-2
・タイプ: 星型複列14気筒、空冷式、過給式	・Type: 14 cylinders in two-rows radial layout, air-cooled, supercharged

- ・排気: 量 41.8 ℓ
- ・出力: 1,700馬力
- ・直径: 1,290 mm
- ・長さ: 2,006 mm
- ・重量: 1,012 kg

- ・Displacement: 41.8 ℓ
- ・Output: 1,700 HP
- ・Diameter: 1,290 mm
- ・Length: 2,006 mm
- ・Weight: 1,012 kg

BMW 801エンジンは、直接燃料噴射システムと、スロットル設定に応じてプロペラピッチ、燃料供給、混合気、点火時期、スーパーチャージャー出力を自動的に調整する機械式アナログコンピューター「集中制御装置(コマンドゲレート)」を備え、パイロット作業を大幅に簡略化した。このエンジンは100オクタン価のC3燃料を必要とした。The BMW 801 engine was equipped with a direct fuel injection system and a mechanical-hydraulic Kommandogerät [Command device] that automatically adjusted the propeller pitch, fuel supply, mixture, ignition timing and supercharger output based on the throttle setting, thus significantly simplifying the pilot's workload. This engine required 100-octane C3 fuel.



●武装 / Armament

・MG 17 機銃 × 2挺	・MG 17 Machine Guns × 2
・MG 151 機関砲 × 2門	・MG 151 Cannons × 2
・MG FF 機関砲 × 2門 (未搭載)	・MG FF Cannons × 2 (Not installed)



ラインメタル社製MG 17/7.92mm機銃×2挺を機首に装備。各銃には900発のベルト給弾式弾薬が供給され、合わせて1800発の弾薬が供給された。2挺のMG 17機銃はエンジンの上、パイロットの視線に近い位置に搭載されており、空気でチャージされ、電気で発射された。機体翼付け根部にマウザー

社製MG 151/20mm機関砲を2門装備。各砲には250発のベルト給弾、合わせて500発の弾薬が供給され、電氣的に充電・発射され、徹甲弾、破砕弾、爆薬、焼夷弾など様々な弾薬を発射することができた。両翼の中央にイカリヤ社製MG FF/20mm機関砲を2門装備。各砲には90発のドラム給弾が供給され、合わせて180発の弾薬が供給され、地雷弾、徹甲弾、破片弾、爆薬、焼夷弾など、さまざまな弾薬を発射することができた。(このキットでは未搭載)
2 × 7.92 mm Rheinmetall MG 17 machine guns in the nose. Each gun was supplied with 900 belt-fed rounds of ammunition, a combined total of 1800 rounds. The two MG 17 machine guns were mounted above the engine, close to the pilot's line of sight. The MG 17 machine gun was charged pneumatically and fired electrically. 2 × 20 mm Mauser MG 151 cannons in the wing roots. Each gun was supplied with 250 belt-fed rounds of ammunition, a combined total of 500 rounds. The MG 151/20 cannon was charged and fired electrically and could fire a variety of ammunitions, such as armour-piercing, fragmenting, explosive or incendiary. 2 × 20 mm Ikaria MG FF cannon in the middle of each wing. Each gun was supplied with 90 drum-fed rounds of ammunition, a combined total of 180 rounds. The MG FF cannon could fire a variety of ammunitions, such as mine shot, armour-piercing, fragmenting, explosive or incendiary. (Not installed on this kit)